

ガイドブックづくりの進め方について

木村 純

1. このガイドブック作成に当たっては、ガイドブックの意義を聴き取り相手になってくださる方に理解していただくことが大切です

- ① 高齢化がすすみ、高齢者は、尊敬され、大切にされるだけでなく、自ら、地域づくりの主体として、社会参加することが求められています。また、元気に活躍することが、毎日を健康で過ごし、生きがいをもって生活することにもつながります。どのような場面でシニアの活躍が期待されているのかを紹介することを目的としています。
- ② 石狩市は、リタイアするまでは札幌市で働く方が少なくありません。リタイアして、いよいよ人生の仕上げの期間を充実させるためには、住まい続けてきた、石狩の歴史や文化を学ぶ、石狩の豊かな自然環境に親しむ、もっと地域に貢献する、趣味や生きがいのための余暇活動を共にする友人や仲間を得る、いわば「地域デビュー」のための情報がほしいと思っているのです。
- ③ そのためには、現に、元気に活動をしているシニアの人が、どうぞ一緒にと優しく声をかけてくれるよう、そのような場所へ気軽に訪ねてみようと思わせるようなガイドブックがほしいのです。
- ④ そのガイドブックを社会教育委員がみんなで手作りをしてみようというのです。元気に活動しているけれどももっと仲間がほしいと思っていられっしゃる方が登場して、自分たちの活動の楽しさや課題を率直に語っていただくものにしたいと思います。私たちのまちで高齢者がどんな活動をしているのか、高齢者にはどんな役割が期待されているのかを社会教育委員自身が知り（学び）、それを市民の皆さんに知ってもらうのは社会教育委員の大切な役割だと思っています。

2. どんなグループ・個人にお話を聴くか。

（1）グループの類型（タイプ）

- ① シニアによるグループ
- ② シニアが中心になっているグループ
- ③ もっとシニアに参加してもらいたい、活躍してもらいたいと考えているグループ
- ④ シニアを対象にしたボランティア活動をしているが、シニア自身にも参加してもらいたいと考えているグループ

（2）グループの分野

- ① シニアの生涯学習：
いしかり市民カレッジ、公民館活動（例えば、そば打ち同好会）、いしかり食と農のカレッジ、などが考えられます。
- ② シニアの市民活動：
ボランティア（社会教育施設：例えば、図書館フロアボランティア、読み聞かせの会）や社会福祉施設など）やNPOなどの活動、町内会、社会福祉協議会、自然環境の保護、観光・郷土史ガイドなどが考えられます。また、石狩市ボランティアセンターでの聴き取りなども含まれます。

③ シニアの居場所：

通いの場（ふれあいサロン、健康麻雀の会など）、高齢者クラブ（旧石狩区域では、石狩シニアクラブせせらぎ、なぎさ会、寿光会、喜楽会、シニアクラブ栄、憩会、花川南すみれ会、新コスモス会、コスモス会、むつみ会、樽川愛樽クラブ）などが考えられます。

④ シニアの仕事：

ハローワーク、高齢者事業団など高齢者の労働が求められている活動です。

※ 厚田区・浜益区の活動にも聴き取りができるよう配慮したいと思います。

2. 誰にどんなことを聴くか

（１）誰に聴くか：グループのリーダーとシニアのメンバー

（グループのリーダー自身がシニアであれば一人でもよいが、できるだけ２～３人の方にお会いして、お話をお聴きするのが望ましい）

（２）どんなことを聴くか

- ① どのような活動をしているか（どのような地域課題の解決を目指しているか）
- ② 会員の構成 シニアの占める位置や役割（リーダーの交代がスムーズにいつているか、メンバーの高齢化がすすんでいるか、新しいメンバーは参加しているか）
- ③ その活動を通じて、どんな楽しみや生きがいを感じているか
- ④ シニアに呼びかけたいこと
- ⑤ そのグループが活動をするためにどんな学びをしているか・どんな学びがあったか
- ⑥ その時、社会教育をはじめ行政にどのような支援を受けたか（受けなかったか）、公民館などの公共施設を利用したか、活動をすすめる上で行政にはどんなことを期待するか
- ⑦ 活動をすすめる上でどんな課題や困難を抱えているか（リーダーのなり手がいない、メンバーの高齢化が進んでいるが、新しいメンバーがなかなか増えない、活動する会場の確保が難しい、活動資金が不足している、困ったときに相談に乗ってくれる窓口がない、など）
- ⑧ 活動場所、活動日、連絡先（住所、電話番号、メールアドレス）
→ これを、少なくとも 15 ケース行います。ヒアリングの際は、録音（IC レコーダー）と写真（スマホ・カメラ）を携行します。

3. ガイドブックの発行について

- ① まず電子版を作ります。2の結果を簡潔に報告する文章と調査に当たった方の感想を書いたもの、2人で800～1200 字程度、あとは写真やデータ（見開き2頁）。それに、石狩市で生活するシニアが社会参加するために有用な情報を掲載します。
- ② 電子版をもとに、冊子を作製します（年度内を目標にします）。
- ③ 編集は、（ ）、（ ）、（ ）と事務局が担当します。
- ④ 最終的には、これまでの社会教育委員の活動やこのガイドブックの作成の過程を含めた

ものを書いて、来年度には、出版を予定します(販売します)。

4. 日程について

- ① 教育プランの社会教育委員としての提案の原案づくりを兼ねてガイドブックづくりをします。
 - ・教育プランの提案の原案は、10月の社会教育委員の会議までに作成します（最終の話し合いを社会教育委員の会議とします）。
- ② したがって、8月中にガイドブックのためのヒアリングを終えます。その間は各班ごとに動いてください。ガイドブックの作成と教育プランについて、各班ごとに考えたことを話し合い、共有するためにみんなが集まる会議を8月下旬から10月はじめにかけて1回はもちたいと考えています。
- ③ ヒアリングの結果についての報告は今年中をめどとして、その後年度内に編集を終え、電子版、冊子を完成させます。